



白樹

HAKUJU

白樹会だより 第28号

令和6年8月1日

発行/山梨県立大学看護学部同窓会 白樹会

編集/白樹会編集委員会

ホームページに最新情報を随時更新しております。
住所変更もこちらからお願い致します。



目標と挑戦



山梨県立大学
看護学部同窓会「白樹会」会長
山梨県立高等看護学院
看護第1学科29回生・保健学科30回生

山下 清子

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃から白樹会活動にご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

令和5年10月に開催された総会において白樹会の会長に就任しました山下清子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また皆様方には、母校で学んだ看護の知識や技術を礎に、保健・医療・福祉・教育等様々な分野で日々ご尽力をいただいております。とくに、改めて感謝申し上げます。

本同窓会も昭和28年に開校した山梨県立高等看護学院の同窓会として昭和30年に設立されて以来、県立看護短大、県立看護大学を経て、現在の県立大学看護学部へと変遷し、今年で69周年を迎えました。令和6年4月1日現在で会員数は5,422人となり、会員相互の親睦や資質向上を図るとともに、在校生への支援を通じ、母校の発展に寄与するという目標に向けて活動を進めています。

さて今年度の広報誌『白樹』のテーマは、『挑戦』としました。新型コロナウイルス感染症が感染法上五類に移行して1年3か月が経過し、『感染対策を講じながらの日常』が戻る中、新たなステージでチャレンジしていくことが重要と考えたからです。会員の皆様は、今ど

んなことを挑戦していますか？私は毎年『チャレンジしたいこと100のリスト』を自分の願事ノートとして作成しています。目標の内容は『毎日笑顔で過ごす』『本を週5冊読む』『毎日30分運動する』など小さいことから『今年○○に行く』『○○ができるようになる』といった実現がやや難しいことまで様々。具体的な目標を設定し、実現のための方法を工夫し（戦略を練り）、行動するといった『Do』『See』のサイクルを回すことが人生を豊かにする一歩だと楽しみながらその目標に挑戦しています。

さて個人的な挑戦はさておき、現在は少子・超高齢多死社会、生活習慣病等疾患の慢性化・複雑化、様々な感染症や自然災害など健康危機への対応など様々な課題が山積しています。保健・医療・福祉・教育など働く場は違えども私達は、住民のいのちと暮らしと尊厳をまもり支えるために、看護職として質の高い看護サービスの提供ができるよう挑戦をしていきます。同窓会としても、会員の皆様との親睦や交流、資質向上を図るとともに次年度の70周年に向け、様々な取り組みに挑戦して参りたいと考えています。

今後も皆様方の変わらぬご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

事務局長としての新たな挑戦



山梨県立大学
看護学部同窓会「白樹会」事務局長

横内 理乃

日頃より同窓会活動に対するご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私が白樹会事務局の一員として活動を始めた令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、対面での活

動が制限されてきました。その中で、会員の皆様や学生の支援に向けて試行錯誤し、白樹会を盛り上げていくことと検討を重ねた経験が、私にとって貴重なものとなりました。

この度、事務局長の任を受け、これまで築き上げてきた白樹会の活動を維持・発展させることが私の『新たな挑戦』となります。会員一人一人の声に真摯に耳を傾け、そのニーズをしつかりと捉えながら、役員・事務局と連携して取り組んでいきたいと思

います。今年度はハイブリッド方式での総会・講演会を成功させることができました。ウィズコロナからアフターコロナの時代への移行を見据え、「新しい生活様式」に即した白樹会を模索・推進していく覚悟です。皆様におかれましては、これまで以上に白樹会の活動に関心を寄せ、身近な存在として積極的にご参加いただけるよう、心よりお願い申し上げます。同時に、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2023-2024年事業計画

- 1) 通常総会開催
- 2) 講演会
- 3) 同窓会誌『白樹』の発行
- 4) 山梨県立大学看護学部行事への参加・協力
- 5) 在学生への支援活動
- 6) 白樹会寄付金等の受入れ
- 7) 白樹会ホームページによる広報活動
- 8) その他
 - (1) リレー・フォー・ライフジャパン2024甲府への支援・参加
 - (2) 山梨県立大学大学院看護学専攻科(大学院)への支援

同窓会役員 (2023.10 ~ 2024.9)

	氏名	所属・役職名	卒業期
名誉会長	早川 正幸	公立大学法人 山梨県立大学 学長	
名誉会員	松野 かほる	元山梨県立看護大学 学長	
	林 滋子	元山梨県立看護大学・山梨県立看護大学短期大学部 学長	
	望月 勲	元山梨県立看護大学短期大学部 学部長	
	松下 由美子	元山梨県立看護大学 学部長	
	佐藤 悦子	元公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長	
	流石 ゆり子	元公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長	
	村松 照美	元公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長	
名取 初美	元公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長		
顧問	泉 宗美 恵	公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長	
会長	山下 清子	自宅	看1科29回生 保健科30回生
副会長	大森 泉	クローバスマイル訪問看護ステーション	看短大9回生 県大院8回生
	秋山 奈菜子	(株)ななすみ 訪問看護ステーションすみ	県大院6回生
監事	齊藤 けさ子	自宅	看1科15回生 保健科16回生
	小川 忍	山梨県看護協会	看1科26回生

卒業学校名称	略称	卒業学校名称	略称	卒業学校名称	略称
看護第1学科	看1科	看護第2学科	看2科	看護大学大学院	看大院
保健学科	保健科	看護短大	看短大	県立大学大学院	県大院
看護第2学部	看2部	看護大学	看護大		
看護第3学部	看3部	県立大学	県立大		

同窓会事務局 (2023.10 ~ 2024.9)

	氏名	所属	卒業期
事務局長	横内 理乃	公立大学法人 山梨県立大学看護学部	看1科32回生
書記	田草川 純子	公立大学法人 山梨県立大学看護学部	看護大4回生 県大院11回生
	一瀬 美帆	公立大学法人 山梨県立大学看護学部	県立大2回生
会計	飯嶋 玲奈	学校法人 健康科学大学看護学部	県立大5回生 県大院12回生
	勝俣 晴加	公立大学法人 山梨県立大学看護学部	看護大2回生
	三澤 みのり	公立大学法人 山梨県立大学看護学部	看1科41回生 保健科42回生 県大院2回生
	市川 佳子	山梨大学医学部附属病院	県立大4回生
	齊藤 寿美	(株)ななすみ 訪問看護ステーションすみ	看1科33回生
	高取 充祥	公立大学法人 山梨県立大学看護学部	県立大1回生
	大久保 知香	山梨県福祉保健部 峡東保健福祉事務所	看短大6回生
	五味 瞳	公益財団法人 山梨厚生会 山梨厚生病院	看短大5回生
	渡邊 優	国民健康保険 富士吉田市立病院	看護大5回生
	井出 和子	医療法人 のだ内科クリニック	看2科10回生
事務局員	三枝 享	公立大学法人 山梨県立大学看護学部	県立大3回生
	山岸 良治	自宅	看1科37回生
	見高 智香	地方独立行政法人 山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	県立大1回生
	木村 友里	地方独立行政法人 山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	県立大10回生
	奥田 悠祐	地方独立行政法人 山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	県立大11回生
	樋口 知香	山梨大学医学部附属病院	県立大11回生
	山岸 大賀彦	地方独立行政法人 山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	県短大3回生
	小林 美南	国民健康保険 富士吉田市立病院	県立大11回生
	石井 真実	甲府市笛南中学校	県立大7回生
	星野 麻子	山梨県立育精福祉センター	看短大4回生
前澤 美代子	公立大学法人 山梨県立大学看護学部	看1科34回生	

白樹会一般会計決算報告 (2022.10 ~ 2023.9)

収入総額	3,182,614	円
支出総額	2,123,570	円
差し引き残額	1,059,044	円

〈収入の部〉

項目	2022年度予算額	2022年度決算額	増減	備考
繰越金	1,082,603	1,082,603	0	
入会金及び終身会費	2,000,000	2,100,000	100,000	
利息	10	11	1	
合計	3,082,613	3,182,614	100,001	

〈支出の部〉

項目	2022年度予算額	2022年度決算額	増減	備考
会議費	200,000	59,147	△ 140,853	
事業費	1,900,000	1,623,109	△ 276,891	会誌白樹発行・在校生支援等
事務費	155,000	116,064	△ 38,936	
賃金	50,000	10,000	△ 40,000	
慶弔費	50,000	20,450	△ 29,550	
予備費	727,613	294,800	△ 432,813	寄贈絵画の額および運搬設置費
合計	3,082,613	2,123,570	△ 959,043	

白樹会特別基金会計決算報告 (2022.10 ~ 2023.9)

収入総額	5,010,803	円
支出総額	0	円
差し引き残額	5,010,803	円

〈収入の部〉

項目	2022年度予算額	2022年度決算額	増減	備考
前年度繰越金	5,010,761	5,010,761	0	
利息	44	42	△ 2	
合計	5,010,805	5,010,803	△ 2	

〈支出の部〉

項目	2022年度予算額	2022年度決算額	増減	備考
被災学生等支援費等	200,000	0	△ 200,000	
合計	200,000	0	△ 200,000	

細項目等はページ構成の関係ですべて記載できない為、白樹会ホームページより総会資料をご確認ください。

会計 三澤みのり、勝俣晴加

【学生支援事業】

学生の活動のためのチューター費を学部長にお贈りしました。



今年度の事業1

聖灯祭のための支援金を実行委員長にお贈りしました。



【合格祈願・卒業記念品贈呈】

国家試験合格を祈って鉛筆をお贈りしました。

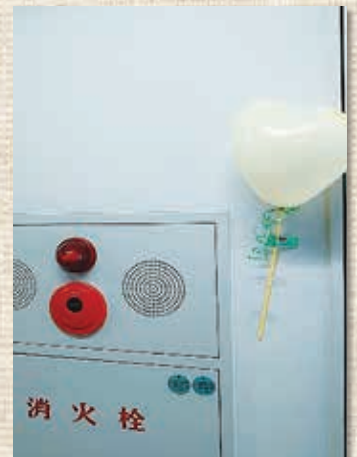


卒業記念として免許証入れをお贈りしました。

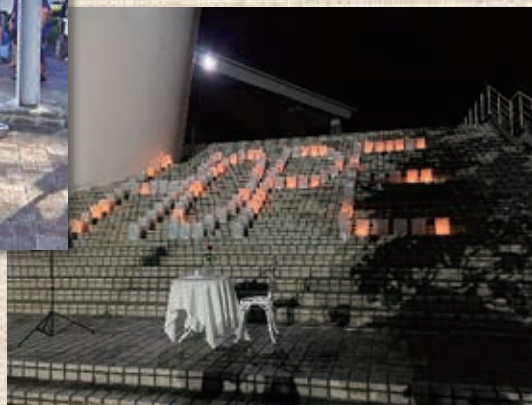


【防災サークル】

防災に関する勉強会に際し、学内の消火栓や消火器等の位置確認のための風船の購入支援をしました。



【リレーフォーライフジャパン2023 in甲府 活動支援】



【学生入会ガイダンス】

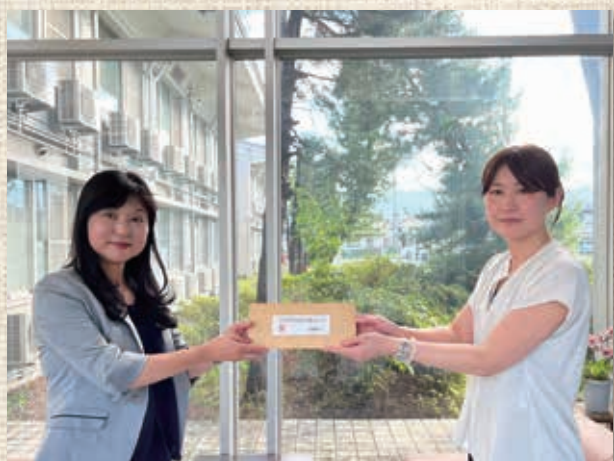
山下会長が学部生と大学院生に向けて入会説明を行いました。



【大学院生支援事業】

研究に励む大学院生に
図書カードをお贈りしました。

外部講師用飲用水を寄付しました。



テーマ「挑戦」

保健師

日頃の関係者との関係の積み重ねを大切にした挑戦

峡東保健福祉事務所（峡東保健所） 大久保 知香



私は保健所で新型コロナウイルス感染症への対応や能登半島地震の被災地への保健師応援派遣を経験しました。その場では業務を行うことに精一杯で周りをみる余裕がないこともありました。振り返ってみると、感染予防対策や災害への備えに平時から取り組むこと、日頃の業務を積み重ねることの大切さを感じたとともに、いつでも様々な人たちの支えのなかで仕事をさせてもらっていると実感しました。

現在は、難病対策や在宅医療に関する推進事業に携わっています。難病対策では、災害時に備えて医療機器の使用状況等を把握し、自助を高めることや支援者と支援体制を検討しています。事業を行ううえで保健所だけでは完結しないことも多く、関係者との協働が必要です。安心して生活できる地域づくりのために、日頃から予防の視点を持ち、保健師として自分には何ができるのか、周りから何を求められているのかを考えながら、支えられる人になれるよう、これからも挑戦していきたいと思っています。

訪問看護師

訪問看護師という道への挑戦

公益社団法人 山梨県看護協会 貢川訪問看護ステーション



一昨年の春に大学を卒業し、新卒で訪問看護師になってから1年が経ちました。この1年、経験する事のほとんどが初めてであり、その1つ1つが挑戦だったように思います。私にとっては、新卒で訪問看護師になるという選択も、とても大きな挑戦でした。訪問看護師は1人で利用者さんのお宅へ伺い、その日の様子をアセスメントしてケアを行います。

そのため、高い観察力・アセスメント力・看護技術が求められます。私が訪問看護師という道に挑戦する事ができたのは、応援してくれた両親や大学の先生方、何よりも、一緒に新卒でこの道に進もうと決めてくれた同期のおかげでした。これまでの自分の挑戦を振り返ると、いつも誰かの支えがありました。これからも支えてくれる人へ感謝の気持ちを持ちながら様々なことに挑戦し、目の前にいる利用者さんのその人らしさを支えられるよう、訪問看護師としての成長を続けていきたいです。

保健師
看護師
養護教諭
助産師

辻 乃 綾

看護教諭

40歳からの挑戦

山梨県立ろう学校 古屋 奈津子



私は大学卒業後より十数年、病棟や特養、訪問看護等、看護師としての経験を積んできました。看護師という幼い頃からの夢を叶え、満足して勤めてきましたが、現在は看護教諭として教育現場で働いています。

看護教諭として働き始めたのは、数ヶ月の臨時のお話をいただいたことがきっかけでした。その期間が終わればまた看護師に戻るつもりでしたが、実際に子どもたちや先生方と関わる中で、学校における病気や怪我の予防的指導の重要性を感じ、看護教諭として新たに挑戦する決意をしました。初任は40歳でしたが、今まで培ってきた看護師経験を生かし、先を見通す危機管理を下に、自らが予防的行動のできる指導をしたいと考えています。

丁寧な指導や関わりができると、子どもたちはそのまま行動として返してくれます。あの時、看護教諭へ挑戦する決意ができて良かったなと思う瞬間です。遅咲きの新米看護教諭、これからも頑張っていこうと思います！

認定看護師

認定看護師としての挑戦

山梨県立中央病院 田中 青流

「患者の救命が最優先であり、感染対策は二の次」といった職場の風潮を変えたいとの思いから、感染管理を学びたいと令和5年度感染管理認定看護師教育課程を履修し、長いようであつという間の1年間が終わりました。1年ぶりの職場での仕事は相変わらずの忙しさで、机に向かってじっくり勉強できていたことが、改めて貴重な時間であつたと感じています。世間では「アフターコロナ」と言われ、新型コロナウイルス感染症のニュースを耳にすることもほとんどなくなり、病院においても徐々に新型コロナウイルス感染症への特例的な対応から、「ウイズコロナ」への対策に代わってきています。そんな状況の中、感染管理認定看護師に求められていることは、新型コロナウイルス感染症への対策で得られた院内での一体感や熱意を医療関連感染症などの感染対策につなげていくことであると感じています。そのためには根拠のある対策を職員1人1人に周知し、行動レベルまで落とし込むこと、病院だけでなく近隣の介護施設などにも同様の指導を行うことが必要であると考えています。認定看護師としての新たな役割に挑戦し、看護師として成長できるよう精進していきたいです。



助産師

再開した支援に関わりたい

山梨県立中央病院 総合周産期母子医療センター 萩原 沙南



感染対策に伴う様々な制限のなか、これまで試行錯誤しながら母子と家族への支援を行ってきました。DVD視聴や個別で短時間な支援が中心だったため、コミュニケーションが一方通行に感じることが多くありましたが、昨年度から少しずつ制限緩和され、当病棟でも両親学級やマタニティヨガ、夫立ち会い分娩、面会などが再開してきました。患者さんと早期から関わる機会が増えたことで、患者さん同士、母子と家族、患者さんとスタッフ：様々な繋がりが見え、母子と家族への支援には、この早期からの繋がりが大切なのだと実感することが出ています。

初の感染爆発が起こった年に私は入職し、コロナ禍前の支援の実際を知らず、実践も出来ず早4年が経ちましたが、やっと私たちの番です。この4年間で得た経験も忘れず、志高い先輩方の支援を見習いながら、今まで実践出来なかった支援に今年度は積極的に参加していきたいと考えています。

小さな挑戦



山梨県立大学理事長・学長
早川 正幸

Covid-19パンデミックの裏で、既存の抗生物質が効かない耐性細菌が広がるといふ問題が進行しています。様々な対策が必要だと言われていますが、その一つに耐性菌に効く新規抗生物質の開発があります。

新薬開発のためにはその生産菌である放線菌などの微生物を自然界から分離する必要があります。私の研究課題は放線菌分離用培地の開発で、37年前に開発した培地HV agarは、現在世界中の研究者に使われ、多剤耐性菌MSSAなどに有効な抗生物質も発見されています。

HV agar開発のきっかけは、修士論文研究の過程で別の目的で調整してあった腐植酸を、ふとした着想で培地の栄養素として使ったことにあります。学生時代の小さな挑戦が、生涯にわたる研究テーマを導くことになったのです。万事を整えて皆で行う大きな挑戦も重要ですが、日々の仕事の中での小さな気付きに着想を得て実行する、この挑戦こそが感染症への真の対策を導くのだと思います。



挑戦に向かう学生たちへの期待

山梨県立大学看護学部 学部長 泉 宗美恵

日頃から看護学部の教育および学生への多大なご協力・ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。長きにわたる新型コロナウイルス感染症による行動規制が、ついに緩和されました。これまでの数年間は、学生たちにとっても、教職員にとっても、試験の時でありました。しかし、その試験を乗り越え、今、新たな一歩を踏み出す時が来ています。

キャンパスには活気が戻り、学生たちは対面授業や実習に熱心に取り組んでいます。また、学生たちは学業だけでなく、ボランティア活動や地域活動にも積極的に参加しています。災害支援や高

齢者施設でのボランティア、国際交流など、多岐にわたる活動を通じて、社会に貢献しようと、新たな挑戦に取り組んでいます。

これからの時代を担う学生たちには、柔軟な思考と確かな実践力が求められます。私たちは、そのための環境を提供し、学生が自信を持って未来に向かって進めるよう全力でサポートしていく所存です。同窓会の皆さまにおかれましても、これからも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



未来へ向かって挑戦を続ける

山梨県立大学大学院看護学研究科 研究科長 米田 昭子

会員の皆様、こんにちは。

山梨県立大学大学院看護学研究科では、2021年博士後期課程が開講し、昨年、完成年度を迎えました。理念としている「高度専門職業人、看護学教育者および看護学研究者等の育成に貢献し、人々の健康と福祉に寄与する」を念頭に、さらなる挑戦を続けていきたいと考えております。

今年度は、「アフターコロナ」と言われ、いかにウィルスと共存するかをそれぞれが考え、行動する世の中となりましたが、この間、白樹会をはじめ、多くの方々にご支援頂き、講義、演習、研究、そして、CNSコースでは実習を行うことができま

した。感謝申し上げます。

今年度、博士課程前期・後期を合わせ、34名の大学院生が、学んでおります。それぞれの課題を基盤に取り組む一方で、自分のためだけでなく、広く社会に受け入れられること、看護の発展に寄与するためにどうあるべきかを常に考えてまいりたいと思っております。

今後、引き続き、同窓会長の山下清子様をはじめ、会員皆様のご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、これからの白樹会のご発展をお祈りしております。

あいさつ

山梨県立大学看護実践開発研究センター

センター長 前 澤 美代子



白樹会の皆様、平素より本センターへのご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございます。本センター

は2010年に開設し、認定看護師教育課程において、緩和ケア分野（現在は閉講）、認知症看護分野は今年で11期生を迎えます。そして、2023年度に開講した感染管理分野（特定行為を含むB課程）は2期生を迎えました。認定看護師に特定行為が加わると、当該分野において医師の指示や診断を待たずに、臨床推論をもとに薬剤投与ができるため、患者にとって迅速かつ適切で質の高い医療を受けることができるかと期待されています。これまで、緩和ケア分野190名、認知症看護分野269名、感染管理分野14名の合計473名が修了しました。

その他の事業では、専門看護師資格取得支援のためのコンサルテーションは16年目となり、これまで大学院を修了した後の専門看護師資格取得にむけて76名の支援を行ってきました。また、山梨県の委託事業である新人看護職員多施設合同研修と実地指導者研修、今年度から実習指導者研修を新たに運営します。さらに研究支援、事例研究支援など地域の看護の発展のための役割を果たしております。公開講座では、認知症者へのケア、エンドオブライフケアに関するプログラムなど社会の情勢や受講者のニーズに合わせた研修を企画しております。ぜひ、ホームページをご覧くださいだけばと思います。白樹会の皆様のご健勝ご多幸、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

地域包括ケア病棟で働く緩和ケア認定看護師の挑戦

武蔵村山病院 小澤 愛子



私は、緩和ケア病棟を有する地域包括ケア病棟の一員として働いています。病棟内で一番取り組んでいることは、患者様、ご家族だけでなく、スタッフの苦しみを緩和することです。

病棟の特徴として、高齢で認知症の患者様が少なくありません。そのためスタッフは、転倒予防などの多重課題を抱えながら、終末期の看護を行っています。患者様、ご家族の苦

しみを目の当たりにし、これでよかったのか、もつとできたことがあったのかもしれないという感情から疲弊してしまうことがあります。私は、緩和ケア病棟のような特別な環境でなくても、患者様、ご家族の苦しみを和らげるケアはできると考えています。そのためにはスタッフが一丸となって助けあうことが必要です。私自身、緩和ケアを必要とする患者様やご家族を支える看護師も支えが必要なことだと痛感しているため、スタッフの苦しみを和らげ、一緒に緩和ケアを提供していく仲間づくりに挑戦しつづけています。

がん看護における困難への挑戦

山梨県立大学大学院看護学研究所 博士前期課程 市川 佳子



私は現在、がん看護専門看護師を目指して大学院に通っています。近年のがん医療は高度化・専門分化が進み、がんの生存率は向上しています。そんな中、看護に求められるのは日々進歩

するがん治療に対して適切な知識を得た上でOQLを重視し、がん患者さんの生活を支援することです。また遺伝子検査への対応など倫理的な視点も重要となります。このような

複雑で困難な状況に自分が看護師として何ができるかを考えた時、専門看護師としてより質の高い看護を学びたいと考え、大学院で履修することにしました。大学院と仕事の両立は大変ですが、充実しています。理論を学ぶことで患者さんへの理解が深まり、状況に応じた看護を考えることができます。実習では施設の強みを活かした活動を学びました。研究ではがん治療の副作用への看護について検討しています。挑戦とは困難なことに立ち向かうことで、まさに今、がん看護における困難に挑戦していると実感しています。

挑戦

山梨県立大学大学院看護学研究所 博士後期課程 鈴木 美恵子



私は、4月より山梨県立大学博士後期課程地域包括ケア看護学分野に進学しました。仕事との両立と、助産師である自分が歩んできた分野とは異なるフィールドへの挑戦があります。

産科やNICUで出会った医療的ケア児のお子さんとお母さんに行った看護では、忘れられないことが沢山あります。退院後どうしているのかと気がかりで、母親の苦悩に寄り添

えていたのかと後悔することもありました。看護という仕事のまともとして、地域で医療的ケアを受けているお子さんとご家族の支援の課題を把握し、急性期病院で行う看護を探索したいという思いが大きな動機です。研究を遂行するにあたり、自分の未熟さのため大きな困難があると思いますが、挑戦できる環境に置かれていることを幸せと感じ、挑戦を見守って下さる大学の先生方や職場の方へ感謝の気持ちを忘れずに邁進していきたいと思っています。

今年度の事業2

【環境支援事業】

新入生の入学やオープンキャンパスに合わせて花壇を整備しました。
年間を通じて在校生が気持ちよく登下校できるよう
肥料やりや植え替えをしました。



大学の授業の様子

「ある日突然、あなたは難民になる。JICA地球ひろばでの課外授業（国際看護学）」

「国際看護学」では、国際的な課題を体験的に学習できるプログラムを導入しています。2023年度は、地球規模で見た看護や健康概念の歴史の変遷、国際活動の実際としてJICA国際緊急援助隊や発展途上国でのNPO草の根活動などの講義を受けた後、JICA地球ひろばでの体験学習に参加しました。学生たちは、JICA海外協力隊員からの実践報告を聞き、展示ブースを見学した後、世界各地の難民が直面する困難や迫られる選択を疑似体験しました（写真）。難民として故郷を追われ、家族や友人、言語や文化など当たり前の日常が奪われる体験を通して、学生たちは「非日常」が「日常」となる悲惨さを知り、国際支援・協力の重要性を実感していました。

例年、同窓会からは海外研修へのご支援を頂いております。2023年度は残念ながら条件が整わず海外研修を断念し

ましたが、在日外国人の座談会や医療通訳シミュレーションを取り入れ、国内の看護の課題を身近に感じられる機会としました。学生は「途上国の医療現場の改善を考えると、日本の考えを押し付けるのではなく、その国の文化や思想、国民性を尊重したアプローチが必要。（3年 戸来）」、「国際緊急援助隊や草の根活動をしている方、在日外国人からリアルな課題を聴けたことは貴重な経験でした。日本国内でも文化や言葉の壁を抱える人に対して支援できることがある。（2年 小川）」、「世界を知ることによって日本の素晴らしさや日本ならではの課題を見つけることができ、大きな成果だと思う。（3年 田代）」等と振り返っています。本科目では、今後も地球規模の課題に目を向け、国際看護を考える機会を提供してまいります。

国際看護学 担当教員 井川由貴



山梨県立大学看護学部 同窓会「白樹会」

2024年度 通常総会のお知らせ

聖灯祭同時開催

2024年 **10月5日(土)** 10:00～(受付開始 9:30)

会場 山梨県立大学池田キャンパス内

申込 申し込みフォーム(右QRコード読み取り)

※QRコード読み取り不可の場合は、メール(hakujyu@yamanashi-ken.ac.jp)
または返信ハガキ(本誌同封)でお申込ください。



× 切 2024年9月20日(金)

記念講演会のお知らせ

～ ヴォイス・セラピー 声の力で癒す～

参加
無料

日時：2024年10月5日(土) 10:30～12:00

場所：山梨県立大学池田キャンパス内 (ZoomによるLive配信あり)

皆さん一人おひとりの「声」が掛けがえのない「財産」であることをお伝えしたくて、
上藤流ヴォイス・セラピーを提唱しています。

コミュニケーション・ツールとして、良好な人間関係を築くための潤滑油として、
心身の健康のバロメーターとして…、声のもつ素晴らしい力(働き)を、一緒に学
んでみませんか？



講師：上藤美紀代 先生

ヴォイス・セラピー実践研究家／絵本専門士／
元SBS(静岡放送)アナウンサー
舎鐘ケア・コミュニケーション研究部会
(シニア・アドバイザー)

皆様のご参加、お待ちしております。

最終講義のご報告

2024年3月名取初美教授の最終講義が開催されました。
白樹会から胡蝶蘭をお贈りいたしましたのでご報告いたします。



白樹会の事務局に 入ってみませんか？

事務局員 随時募集中！

私たちといっしょに、
後輩や母校のための
さまざまな支援活動に
取り組んでみませんか。
興味のある方はHPまたはメールで
ご連絡ください。

白樹会基金、 ご寄付をよろしくお願いいたします。

ホームページをご覧ください。

山梨県立大学大学院看護学研究科

2025年度博士前期課程・博士後期課程募集

詳しくは、「山梨県立大学大学院」を検索
<http://www.graduatenuresing-yamanashiken.com/>



山梨県立大学看護実践開発研究センター

認定看護師教育課程受講生募集中

認知症看護B課程準備中 感染管理B課程開講中
<https://www.yamanashi-ken.ac.jp/area/rcdnp/>




模擬患者養成プログラム参加者募集



患者役(SP)になって看護学生の教育に貢献しませんか？

日時：2024年9月 3・4・8・11日 全4回 10時～12時

場所：山梨県立大学池田キャンパス

プログラムの詳細や応募方法はQRコードから 



模擬患者養成研究会 スパイス甲府 新藤裕治

編集後記

木々の緑が深まる大学の構内は、学生の笑い声が絶えず活気に満ち溢れています。変化の大きかったこの数年を乗り越え、今年のテーマは「挑戦」でした。それぞれの場でご活躍される同窓生の挑戦する姿に、刺激と活力を頂きました。

また来年は、七〇周年という記念すべき年を迎えます。この節目を迎えるにあたり、事務局員一同、改めて同窓生の皆様からパワーを頂いています。学生時代の友人やお世話になった先生方、そして全国でご活躍する同窓生との交流を深める機会として、活動の充実を目指して努力してまいります。

今後とも事務局一同、母校の発展と活動の充実に向けて精進いたします。引き続き温かいご支援、お力添えをよろしくお願い申し上げます。

編集委員一同

【表紙】

Photo Hiromi T

「空と大地、光と影、そして学舎、歴史は自然とともに創られていく」